

はぐくみ会だより

第 39 号

平成27年 4月 1日

所蔵作品紹介 (38)

「巢立ち」

松村 外次郎 作



松村外次郎氏は、1901(明治34)年、砺波市庄川町生まれ。本校木工科(大正9年)卒業後上京し、木彫家の吉田白嶺に師事する。1924(大正13)年、東京美術学校(東京芸術大学)彫刻学科に入学、1929(昭和4)年卒業。師の影響で初期には院展に出品したが、在学中・二科会に移り、1936(昭和11)年より会員。また、1931(昭和6)年パリに留学古典彫刻を学ぶ。1951(昭和26)年、二紀会に彫刻部を創設、生涯を通して松村外次郎ならではの彫刻に取り組みながら、設計・構成・構築などに課題追求の手をゆるめなかった。

筆者が富山県民会館美術館の担当時に「松村外次郎回顧展」を富山県主催として開催(1984年)(松村氏83才)。本校の大先輩と大きな美術展を進めたこと今も記憶に新しい、松村先生のあたたかい人柄にふれたことなど。日本を代表する芸術家を富山県が顕彰、松村芸術は多くの鑑賞者に感銘を与えた。

中国四神、元武(玄武)・鳳龍(青龍)・白虎・朱雀が制作されたのは、80才から6年間、自己の芸術の総括として作られた。

本校所蔵の「巢立ち」制作年は、玄武の制作された80才ごろの作で、ずっしりとした量感の母鳥、足元に2羽の雛、充実した生命力がみなぎる。構成しつくされて省略され誇張された形体からは、慈愛・情愛があふれている。

本校出身の彫刻家・松村外次郎氏の「巢立ち」彫塑(鑄造)作品は、本校・尚美広場で永遠に卒業生を見つづけることしよう。

松村外次郎先生・享年89才(1990・平成2年)

第21回 青井中美展

11月13日(木) ~
11月30日(日)

青井中美展も多くの方々のご支援とご協力に支えられ、今年度で第21回展を迎えました。県内全ての中学校を対象とした美術公募展として広く周知され、今年には参加校41校、応募作品数562点、うち入選258点となり、平均入選率は45.9%でした。期間中は、中学生をはじめとする768名の来館者があり、盛況のうち閉幕を閉じました。

各賞受賞者

青井大賞	中谷 朱里 (中田)
富山県知事賞	池森ヒカル (水見北部)
富山県教育委員会教育長賞	森川 亜美 (高陵)
最優秀賞	籠 大仁 (志貴野)
優秀賞	大家 美奈 (石動)
富山新聞社優秀賞	舟戸 葵 (庄川)
チューリップテレビ優秀賞	石橋 名結 (庄川)
優良賞	村田 秀平 (井波)
富山新聞社優良賞	中田明香里 (福光)
チューリップテレビ優良賞	藤井あすか (庄川)
富山新聞社優良賞	古川 陽 (富大付属)
チューリップテレビ優良賞	若狭 未純 (新湊)
チューリップテレビ優良賞	和田 佳純 (伏波)
作	野村 俊介 (井波)
作	高木 顕仁 (小杉)
作	毛利菜那子 (富山西部)
作	青木明日香 (射北)
作	内呂 匡希 (志貴野)
作	大澤 弥生 (芳野)
作	山田和佳奈 (井波)
作	竹内 彩人 (志貴野)
作	柿沼あすか (石動)
作	開澤 晴香 (井口)
特別賞	宮西 悠輔 (大谷)

●青井大賞

「生きるために」

高岡市立中田中学校

三年 中谷 朱里

人間の心の葛藤をトナカイと狼の戦いに見立てて描きました。必死に生きようとするトナカイは、ブラッスのイメージです。どんなことがあっても希望をもって突き進む前向きな心を表しています。反対に、トナカイを倒そうとする狼はマイナスのイメージです。困難なことがあると無理だと諦めたり、言い訳をしたりする弱さや狡さを表しています。この二つのイメージを表現するための対照的な配色にし、互いがぶつかる中央は、それぞれがとけ出して混ざり合う感じになりました。絵の場面は狼が負けた瞬間です。諦めず希望を持ち続けたトナカイの強さを表現出来るよう、一生懸命筆を動かしました。

作品を完成させるのは大変でした。でも、共に制作に励む仲間、声をかけてくれる友達、見守ってくれる両親、熱心に指導してくださる先生がいたから描き切ることが出来ました。周りのみんなへの感謝の気持ちと、後からこみ上げてくる喜びとで胸がいっぱいです。



●富山県知事賞

水見市立北部中学校 三年 池森ヒカル

「群」 今回のような素晴らしい賞を頂き、本当に嬉しく思っています。

私の「群」という作品は、たくさんの方が群れている様子を描きました。制作中は、先生や部員のみんなから、たくさんアドバイスを頂いて取り組みました。アドバイスを褒める言葉をかけて頂く事で、楽しく作品の制作を行う事が出来、自分らしい作品を作る事が出来たと思います。

青井記念館美術館での作品の講評の際、講評を頂いた先生に、「テールフルに映るヒンの部分を良いと思って下さっていたことを聞き、とても嬉しかったです。

この作品で、初めてこんなにたくさんヒンを描いたので、ヒンの重なりやガラスの透明感、大きさを捉えるのがとても大変でした。ちゃんと出来るのが不安でしたが、今回で自信がつき、これからも絵を描くことを頑張りたいと思います。



●富山県教育委員会教育長賞

「私の夢」 高岡市立高陵中学校 二年 森川 亜美

「私の夢」という題名のこの作品には、今の自分が将来のことを考えて、悩んだり落ち込んだりしても、前へ向かって進んで行くことという強い思いが込められています。後ろで手を組んで胸を張っている姿は、何にでも自信を持って生きて行く、そういう自分になりたいという願望を表現しました。

作品の制作にあたり、初めて行う作業が多く大変でしたが、制作していく中で、作品が自分の姿に近づいていくことがとても嬉しかったです。

この作品を制作すると決めた時、一人で出来るか不安でしたが、指導してくださった先生、励ましの言葉をかけてくれた友達のおかげで、立派に仕上げることができました。

この感謝の気持ちを忘れずに、次の作品制作も頑張りたいと思います。



第21回青井中美展表彰式



平成26年度
優秀賞作品



- 機械科… PRODUCTION OF A 3D PRINTER
- 電子機械科…立って乗れる車の製作
- 電気科…ポース認識によるリモコンカーの制御
- 建築科…第二の人生 一地域再生のかけ橋一
- 土木環境科…炎色反応によるローソクの製作
- 工芸科…アルミの椅子
- デザイン・絵画科…富山のくすりのパッケージデザインの提案

課題研究作品展

2月21日(土)～3月4日(水)

「素晴らしいものづくり」

学校長 松井 裕敏

平成二十六年課題研究作品展は、青井記念館で開催されました。展示された作品は、本校三年生が「課題研究」の授業を中心に、個人またはグループで一年間かけて取り組んできたものです。課題研究は、基礎的・基本的な学習の上に立って、課題を自ら設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合学習を図ると共に、問題解決に向けて意欲的に取り組む能力や自発的、創造的な学習態度を育てることをねらいとしています。

展示に先立ち二月十九日には、七学科の代表作品の発表会がありました。どの発表も各学科の特色を出した大変素晴らしいものでした。また、三月四日の卒業式の後は、多数の保護者やご家族の方々が見に来られ、「すごい、素晴らしい」「さすが高岡工芸の作品だ」など大盛況でした。開催された十二日間で、延べ千人以上の方が見学されました。

卒業生の皆さんには、この経験を生かして、それぞれの道で頑張ってくださいと思います。



私は、300年以上の歴史があり、現在も活躍している「富山のくすり」についてよく知ってみたいと思います。課題研究のテーマに薬のデザインを選びました。

まず初めに私は、富山売薬の配置薬に興味を持ちました。そして、その特徴である「先用後利」の販売システムの利点を取り入れつつ、より良いものにするため、薬を服用するお客さんと売薬さんの両方が使いやすいパッケージのデザインを目標に制作しました。全体のデザインは、薬のしさを残しつつも明るいイメージになり、外で薬を飲む人が周りの目を気にせず使用することができるようになりました。配色は「富山のくすり」ということをPRするために、富山の県花であるチューリップの色から、赤、ピンク、白、緑、黄色を選びました。

制作物のメインであるパッケージは、粉薬と錠剤の二種類を制作しました。

粉薬は、ルースリーフ型にデザインしました。ルースリーフ型にした理由は、本棚の空スペースに置くことができ、省スペース化を実現できるからです。また、売薬さんの荷物を少しでも減らせるようにポケットを取り付け、薬やおまけ、パンフレットを詰められるようにしたのもポイントです。

錠剤は、一回分を立体的なテトラ型の袋にし、それを箱にまとめてみました。「富山のくすり」の錠剤は直径約二ミリメートルと小さく、一回分が十粒や三十粒といったものが多いです。そのため飲みにくいという点を、袋の口がひし形になり飲みやすいテトラ型にすることで改善しました。

課題研究を通して、消費者だけでなく売り手も使いやすいパッケージを考えることの難しさを知りました。また、売薬資料館に行ったり、本を読んだり自分で資料を集め、よく考察することがとても大切だということが分かりました。今回学んだことをいかして、これからも作品制作に取り組みたいです。

「課題研究に取り組んで」

平成26年度 デザイン・絵画科卒業生
中 波 時 歩

コレクションⅢ期

彫刻(彫塑)展「人体像・胸像」

人体を表した彫刻は、たいへん古くからみえるものです。ヒトが自分たち人間を表現するという行為は、根源的な問いであり、また永遠のテーマです。生命観の表現として女性美・官能美、男性の筋肉美などをはじめとする人体の美は元より、一つのフォルムとしての美が見えるほか、人間表現の諸相として、感情や深層心理の表現、また生活の中での一つのシーンを捉えた物から人体を借りての季節感の表現等々の諸相がみえるものとなっています。

展示では、人体彫刻でよく用いられる彫刻素材で塑造の代表的素材である「石膏」「セメント」「ブロンズ」と、彫刻素材の代表である「木」「大理石」を中心に、近代の素材として「FRP(樹脂)」など多彩な素材による人体表現の魅力が当館のコレクションから公開、現在の場所に美術館が設立されて初めて展示した石膏像(11点を含め、52点を展示しました)。(会期を二期一会展)と併設し2月15日(日)まで延期)

平成26年12月13日(土)～平成27年2月15日(日)



コレクションⅣ期

やきものの形展

日本人ほどやきもののすきな民族はなく、やきものは生活必需品でもある。日本には世界に類をみないほど名器や絶品も残っている。これは日本人が美に対する感覚の強いことと、やきものに対し深い愛着があり、研究も熱心である。現在では製陶技術、生産高、輸出高は世界一と言っても過言ではない。また美術陶芸品もすぐれ、陶芸作家の数でも世界一と言われているのが現状である。本館コレクションの「やきもの」は、江戸初期から現代作家までの陶磁器90点あまりが収蔵されています。

今回の展示では、「形」のいろいろを楽しんで戴きました。江戸柿右衛門の「赤絵付 香炉」は江戸時代を代表する作品です。(古染付)「青磁」(白磁)など江戸期の特徴ある作品と富山県内の窯場(備前(九谷)「高取」(清水)の特徴ある作品と富山県内の窯場(一葉窯)「三助焼」(古府焼)「栄一窯」などの秀作46点を展示した。



平成27年3月10日(火)～3月29日(日)

第93回 同窓生ギャラリー

いちごいちえ

一期一会展 2015

平成27年1月25日(日)～2月25日(日)

「モノが集まる、人が集まる、そこから産まれる、様々な出会い」をサブタイトルとし、物づくり作家が作品を発表。伊藤美砂さん(黒部市在住・1980年生まれ)は、腕時計のケース・文字盤・ベルトなどデザイン、加工・製作のオリジナル作品。杉本あかりさん(富山市在住・1984年生まれ)は、銅版画作品11点を展示、シンプルな方法で深海に生きる生物など幻想的に描く。谷口玉美(滑川市在住・1977年生まれ)は、ドライフラワーやブリザーブドフラワーの作品、きれいな花の美しさをそのまま保ちたいの思い。マツザキ イクホ(朝日町在住・1977年生まれ)は、すべてオリジナルの革かばんと小物たち。

本校デザイン科卒業(昭和58年)の松原秀典氏は、アニメーターとして活躍、あみたん娘のCD原画などを出品。今回もプロデュースは松原氏の同級生、林 正人氏。



第94回 同窓生ギャラリー

平成27年3月10日(火)～3月29日(日)

あはたいとさいとうまき「いきもの展」

本校デザイン科を平成18年卒業の河合 惟(あはたいと)と大学同期(専攻・日本画科)の齋藤真希(さいとうまき)の日本画・二人展。

「この星にいる生き物といえば、海と空と陸の生き物の他に植物、鉱物はまた、この地球もいきものといえるのかもしれない。今回は鳥や魚や動物といった、一般的に生き物と言われるものたちを描きました。」のメッセージがあり、二人が描く、「鳥」「水中の魚」

「羊・猫・山羊・犬」など、本格的な岩絵の具で描いた秀作が多く、若い作家の感性が強い。

あはたいの大作「緑の森」(60号)は、水中の水草を森とみたて、小さなメダカが森林の妖精、妖精は森林浴を楽しむかのように泳ぐ、水中を描いているが空気感も漂う。さいとうまきは「羊」の秀作(50号)を描いた、画面いっぱい(羊)をふくよかに、大胆にまた、愛情を込め細密に描写する。若い作家がお互い、切磋琢磨、日本画を楽しく続けてほしい。小作品など26点が発表された。

寄贈作品の紹介

池上 栄一 作

「白紫の花器」

(射水市在住)



玉上 佑子 作

「キャンパスライフ」

(横浜市在住)



板倉 保作 作

「Aコートのマネージャー」

(横浜市在住)



中谷 朱里 作

「生きるために」(青井中美展大賞作品)

(高岡市在住)



はぐくみ会会員募集のお知らせ

はぐくみ会では会員を募集しています。

申し込みは日から一年間会員となります。

- 主な活動
- ・青井記念館美術館への協力・支援
 - ・中学生美術展(青井中美展)への支援

- 特典
- ・企画展等の案内
 - ・はぐくみ会だよりの配布

- 年会費
- ・一般会員(個人) 二,〇〇〇円
 - ・特別会員(企業、団体等) 一〇,〇〇〇円
- お問い合わせ・申し込み先
青井記念館美術館はぐくみ会事務局

編集後記

青井中美展は21回目となり、総審査点数は少なくなる中、審査はより厳しく、入選率は50%を切る部門がでるなど厳選された内容となる。大賞・優秀賞の作品は、いつものことながら中学生のレベルの高さが再認識された。同窓生ギャラリー後期、2つの展覧会は若い作家の発表が揃った。コレクションを紹介するシリーズ「人体彫刻」に絞って展示。開館から20年紹介する機会がなかった、石膏像・セメント作品・木彫作など彫刻作品の醍醐味を感じられた内容となり、鑑賞された方々から高い評価を受けました。私事ですが今年度をもって退任します。2年間はありましたが母校の大先輩の作品に出会え、美術館業務の楽しさも再発見しました。はぐくみ会のさらなる発展を祈ります。

(青井記念館美術館長 山本 貢)

編集発行

富山県立高岡工芸高等学校
青井記念館美術館はぐくみ会

住所 333-8518 高岡市中川一丁目二〇

TEL (〇七六六)二一・一六三〇

FAX (〇七六六)二一・一六三一